

二位 単俊飛

(山本雅子)

日本語コンテスト入賞作

第一位 廃棄物に思う

現代中国学部3年 舒 治雪

皆さん、こんにちは。今日、私は廃棄物について皆さんに聞いていただきたいと思います。

廃棄物と言えば、皆さんの頭の中になにを思い浮かべますか。いらぬもの、使われないものなどでしょう。でも、日本の廃棄物は本当に使われないものなのでしょうか。

ごみが捨てられた場所へ行けば、すぐ分かります。まだ使える古い車やパソコン、家電用品、それから家具などが、たくさん捨てられています。そして、粗大ゴミの山は益々高くなり、ごみの処分のために日本政府は頭を抱えています。これは言うまでもなく、皆さんご存知のことだと思います。

では、食べ物の廃棄物についてはどうでしょうか。今、ここで聞いて下さっている皆さんの中にはコンビニやスーパーでアルバイトをしている方もいると思います。私は最近コンビニでアルバイトをしています。仕事は順調にやっていますが、廃棄物の問題についてはちょっと違和感を待っています。それは毎日コンビニの食品の廃棄時間のことです。実は、最初の日からこんなことがありました。仕事が終わって、帰ろうと思っていた時に、一緒に仕事している人が私に「舒さん、ごみを出して。」と言いました。よく見ると倉庫中に二つ黒いごみ袋がありました、ぎっしりと弁当やケーキ、サンドイッチなどが詰まっていました。「これは...ごみ？」と私は自分の目を疑いました。その人は「仕方がない、賞味期限が過ぎたから。」と言いました。「もう腐りましたか。」と私は聞きました。「いや、そうじゃない、賞味期限は食物が美味しく食べれる期間だ、多少時間が過ぎても、品質上の問題はないけど」と、その方は答えました。「産業廃棄物って焼却されますか？」と私はその人にしつこく聞きました。「そうですね、生物だから。最近堆肥としてリサイク

ルする人もいます。」と答えてくれました。

実は、朝10時賞味期限のものは10時前すでに廃棄してしまいました。同じように、午前11時前や午後6時前などのものはその時間前全部廃棄しました。その店のオーナーに会って、「賞味期限前に半額に処分したら」と私が提議しました。

「いや、絶対しない。これはうち店の方針だ。」とオーナーさんがキッパリ断りました。

白いご飯、狐色に揚げられた唐揚げ、すてきなケーキ、おいしいそうなサンドイッチ。さっきまで商品だったのに、今はごみ。堆肥の仲間入り。どう見ても私は納得できません。中国にいた時、日本のテレビドラマ「おしん」の主人公が食べ物のために、生きるのために幼い時から家を出て、働く姿に大変感動しました。涙を流しながら、それを見ました。今は、もったいないなと思いながら、ごみ袋に私は弁当を捨てています。きれいに盛り付けた弁当はまるで踏み漉された花のように、無残な姿になってしまいました。

私は戦争の炊け野原から今日の日本を建てた人々に敬意を払うけれども、むやみにものを無駄にする人はどうも好きになりません。日本は豊かな国と言われています。その豊かさは決して空から降って来たものではありません。物を大切にしなければなりません。高度成長をしている日本は「大量消費、大量生産、」のアメリカ流の経済を取入れ、大量の資源を無駄にしてきました。

二つのごみ袋は風船のように膨らんでいました。台車に乗せるとき、中から「ギュー、ギュー」と弁当の泣き声が耳に入りました。よその国では、餓死する人もいますよ」と私は思わず叫びたくなるような気持ちになります。白いご飯、狐色の唐揚げ、すてきなケーキ、もともとこれらは人のために作ったものなのに、燃やすと、二酸化炭素など、とんでもない物に変身してしまいます。

「もう終わったか？」と店長は様子を見に来ました。台車を押しながら、私は店長に「お弁当が泣いていますよ」と言いました。不思議そうに店長は私を見て、「そうね、全部で三万円だ。」と言いました。

これで私のスピーチを終わらせていただきたい

と思います。御静聴どうもありがとうございました。

第二位 万引きする老人

現代中国学部2年 単 俊飛

私はスーパーでアルバイトをしたことがあります。この間にさまざまな老人を見てきましたが、驚いたことを体験しました。というのは「万引」ということです。

「万引」この言葉を聞いたら、絶対いいイメージはしないでしょう。「どこの国でもこんなことはあるんじゃないか」とみなさんはそう思うでしょう。一般的には万引するはほとんど若者たちだと思われています。しかし、意外だったのは私が見た万引は老人だったということです。

いつも同じ服装で袋を後ろにぶらさげて、店の中で同じ売り場にずっと立っていて、何も買わずに店を出ていくおじさん、一回買い物をして、また、店に戻って、うろうろしているおばあさん、店の人は何回も注意しましたが、それでも、毎日来ていました。最近、私たちの注意にやっと気がついたのか、もう店に来なくなりました。彼らの服装を見ると、貧乏には見えません。また、店で一緒に働いている店員から聞いたところでは、日本人は定年になったら、一定の年金がもらえそうです。これは日本全国で実施されていますのに、老人は何故万引をしたのでしょうか？彼らに対する年金が少ないからでしょうか？スリルを味わいたいからでしょうか？

私が日本に来る前にテレビや本で見た日本は豊かな経済大国でみんなは幸せに暮らしていると思っていました。しかし、このようなことを実際に自分の目で見ると、本当に信じられないと思います。今の日本は高齢化社会だと言われていますが、一人でいる老人が多い気がします。そして、今の日本の苦者たちは老人への関心がなくなっているように思います。老人たちは寂しいのです。彼らはだれからも相手にされず、孤独なのでしょう。彼らは周りの人に洋意を引きたくて、こんなことをするのはないかと思っています。いつか、私たちも年をとります。そのとき、今の彼らのよう

に社会から無視されたら、きっと悲しいと思います。ですから、老人がもっと参加できるような社会を作るように若い私たちが努力するべきではないでしょうか。たとえば、中国では祝日に親と離れている子快たちはできるだけ、親の所に帰ってきて、一緒食事をするという習慣があります。こういうことが、日本でもあってもいいのではないのでしょうか。老人が活動できる場をふやしたら、うちにいる老人の話を聞いたりして、老人に関心を持ったらいいのではないのでしょうか。



「日本語が上手ですね、日本人とあまり変わらないですね。」と日本人の友人達に良く褒められます。「日本語をどうやって学習しましたか？」としばしばと聞かれますが、その時、いつもへへへと笑いながら、ごまかしていました。この度、山本先生に「ちょっと自分の日本語学習方法について、何か書いてくれませんかね。」と依頼され、今度こそ、わたしは真剣にこのことについて考え出しました。

いまだに記憶に生々しいのは、日本へ留学に行くことを決めた三ヶ月くらい前から、私は中国上海にある語学学校の夜間部で日本語を勉強し始めました。しかし、残念なことに、三ヶ月の唯一の成果は日本語のひらかなとカタカナしか覚えたことでした。それも、最初から最後まで順番で覚えまして、もし途中から一つ仮名を出すと、また、最初から数えなければならぬことになっていました。そのため、一つの単語の発音をするに

は、大変時間がかかりました。でも、その私は日本語が分からないままできっぱりと日本にきました。いま考えてみると、当時の私は大変大胆なことをしていました。

日本に着いた初日の空港で、ごく簡単な言葉「すみません」と声を掛けられた私は、それだけでも緊張して、一生懸命にその言葉の意味を考え、何か答えようと思ったのですが、結局苦笑をもらしながら、不思議そうなまなざしをあげてしまった。

このような状態が、日本に来て二ヶ月くらい続きました。

昼間、日本語学校に通い、初心者コースでは中国出身の先生であったため、授業中はすべて中国語で説明してくれました。よる、寮に戻ると、中国出身の同級生と中国語でおしゃべりにして、まるで、中国にいるのように、日本語に触れる機会がほとんどなかった。

二ヶ月がたっても、日本語の進歩がありませんでした。と、その時心配した末に、私は外国語を学ぶことはどういうことかと一から考え直しました。どこの国でもそうなのですが、人間が赤ちゃんの時から、文字を読めるわけがないですが、しかし、毎日お父さん、お母さんの言葉を聞き、二、三才から子供がしゃべれるようになる。話しが出来ても、この時の子供はまだ文字が読めないのです。これはなぜ？私はひらかな、カタカナが全部読めるけれども、日本語が話せない。これはなぜですか？大いに疑問を持ちながら、考えた結果は、言葉というものを学ぶには、赤ちゃんのように、まず外国語と考えずに、素直に耳から受入れ、そのまままねすることである。例えば、コップを見て、こいう品物は「コップ」と発音すると単純に音で覚えます。同じ品物を見る度にその音を思い出します。カラオケも同じことと思います。大半の人は楽譜から歌を覚えたのではなく、歌手の歌を何通も聴いて、耳からその歌のメロディを覚えたと思います。ということは、まず耳で日本語に慣れることである。そのため、普段大好きな音楽を一切やめにして、代わりに日本語のテープにしました。集中的に聞かなくても良いと思って、とにかく一心に日本語の環境を作ろうと

していました。でも、いまなら言えるかもしれないのですが、日本語のテープをばかり聴くと、ちょっと退屈なことでした。

そして、覚えた言葉を使わないと、忘れやすいと思って、私は積極的に日本人の友達を作ろうとしました。「旅の恥はかきすて」と古くから日本の諺があり、最初から完璧な日本語をしゃべれるわけがないと思って、自分が全て知っている単語を使いながら、手まねで日本人達とコミュニケーションをしていました。幸いに、優しい日本人ばかりに巡り合って、おまけに色々な日本語を教わりました。本当に、感謝の気持ちで一杯です。

日本語を上達するにはもう一つの手段はアルバイト先で覚えることである。私は一番最初日本でアルバイトしたのはある喫茶店でした。女の子だから、いきなりウェイトレスにされました。日本語がまったく分からない私にとって、緊張より恐怖感さえ感じました。でも、期待されている以上、頑張るしかないと思いました。最初、お客さんの注文がほとんど分からない私は、しかたなく一生懸命お客さんの発音をその場で覚え、そして、できるだけイントネーションをまねして、テープレコーダーのように、その発音をそのままに厨房の方に再生しました。初めに、厨房のスタッフ達がいつも大笑いしましたが、皆さんが私の頑張る姿を見て段々と励まししてくれました。今思い出すと、本当に恥ずかしいことをしましたね。でも、お蔭様で、このような暖かい環境の中で、私の日本語が見事に上達しました。

しかし、いくら外国語と考えずに、素直に受入れようとしてきましたが、日本語はやはり私にとって母国語ではないのです。日本語を勉強すればするほど難しいと感じます。特に、私のように、耳から日本語を覚えた人にとって、ある程度うまく話せますが、でも、もしも文書を書くとなると戸惑いを感じます。それは、私の日本語学習方法の中で一番大きな欠点である。まるで、子供のように、日常会話が話せるけれども、もっと専門的な、上手な言葉扱いがうまくできません。ある機会に、私は日本の普通中学校の国語教科書を見ました、外国人の私はこの難しさに驚きました。もっともっと日本語を勉強したい気持ちも

益々湧いてきました。これも、私は愛知大学に留学する一つ大きなきっかけでもあります。うれしいことに、大変優秀な日本語の先生と巡り合っ
て、楽しく、充実した日本語の勉強ができて、今後の学習するには大変助かりました。

以上、私の日本語の勉強方法であります。ご参考まで考えてみて下さい。

<2-3ページのクイズの解答>

1 studio apartment 2 satellite town 3 outlet
4 written test 5 stapler 6 hotel at a railway
terminal 7 gas station 8 cheating
9 automatic pencil 10 marker pen 11 after
sales service 12 pay raise 13 complaint
14 air conditioner 15 cream puff
16 rearview mirror 17 steering wheel 18 seat
for the aged 19 night game 20 jeans

<5ページのクイズの解答> (6) のマンション

(mansion) は英語起源ですが、それ以外はすべてフランス語起源です。したがって、答えは9つです。なおそれぞれの原語を以下に示しておさ
ます。(1) enquête (2) vis (3) piment
(4) silhouette (5) chou à la crème (シ
ュ・ア・ラ・クレーム) (7) crayon (8)
dessin (9) terrasse (10) concours

<編集後記>

発行が遅れましたが、本年度最初の名古屋校舎『語研ニュース』をお届けします。昨年度までの『L.L.ニュース』は今年度から豊橋校舎語学教育研究室が引き継ぎ、発行を継続することになりました。名古屋語学教育研究室では新たに表紙、レイアウト等独自に考案・作成しなければならず、これに時間を要しました。しかし内容豊かな『ニュース』に仕上がったと喜んでます。投稿をいただいた先生方にお礼を申し上げます。年2回の発行を予定しています。今後とも、学生諸君の啓発のため、奮って原稿をお寄せください。

(編者一同)

'99公開講座「言語」のご案内

愛知大学言語学講話会

(前期)

愛知大学豊橋校舎研究館2階会議室
午後2時半～4時半

1999年

①4月17日(土)

「140年前のフランス・空想小説—E. アプー
の場合—」 加藤俊夫(愛知大学名誉教授)

②5月15日(土)

シンポジウム「日本とフランス—その文化受容を問直す—」
(コーディネーター) 中島昭和(中央大学名誉教授)
「鉄仮面伝説と日本の作家たち」

坪井 一(東洋大学名誉教授)
「中原中也とフランス詩」

近藤晴彦(文芸評論家)
「幕末以来の日本とフランス」

出口裕弘〔作家・フランス文学者〕

③6月5日(土)(2講義開催)

「英国中世の大いなる遺産：リンデイスファーン
写本を中心に—ラテン語本体と古英語行間注—」
田本健一(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)
「イギリス式庭園について—思潮史と文化史の見
から—」 安藤 聡(愛知大学経営学部助教授)

④6月19日(土)

「「健康」ということばの語源を探る」
荒川清秀(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

⑤7月10日(土)

「言語の起源について考える—P.リーバーマンの
説をめぐって—」伊藤忠夫(中京大学教養部教授)

(後期)

愛知大学車道校舎3号館第3会議室
午後2時半～4時半

1999年

⑥9月18日(土)

「フランス革命期に議員の意味で用いられた
《mandataire》をめぐって」
田川光照(愛知大学経営学部教授)

⑦10月16日(土)(2講義開催)

「ミハイル・バフチンとテキスト解釈」
小坂敦子(愛知大学法学部講師)
「明治時代と訳語—新しい訳語をめぐって—(5)」
知念広真(愛知大学法学部教授)

⑧11月6日(土)

「学習文法とコーパス」
塚本倫久(愛知大学国際コミュニケーション学部助教授)

⑨11月20日(土)(2講義開催)

「〔未定〕」 清水伸子(愛知大学経済学部講師)
「異文化コミュニケーションと話し方の問題
—異文化語用論の立場から—」
三川克俊(愛知大学経済学部講師)

⑩12月11日(土)

「〔未定〕」 常石希望(愛知大学法学部助教授)

2000年

⑪1月22日(土)

「朝鮮半島における文字の歴史について—漢字とハ
ングルの関係—」 陶山信男(愛知大学法学部教授)

(名古屋語学教育研究室発行)